

このまま「対岸の火災」で良いのでしょうか?!

北朝鮮・イラク
有事に際して

屈辱の「保護国」から脱却し、日本の意志表示を内外に

米国のイラク攻撃が秒読み段階となり、イラクと呼応するかのようになるとここ数カ月展開されて来た北朝鮮の恫喝外交は今、朝鮮戦争休戦協定破棄の可能性という瀬戸際まで来ています。しかし、韓国やわが国に向けてのミサイル攻撃がいつ始まってもおかしくないという緊迫した状況下にあるにも拘らず、わが国政府・国民には緊張感が全く感じられません。

■もつすで、炎が目前まで迫っています

わが国政府はこの厳しい現実には直面しても、まだ国民に何らの説明責任を果たしておらず、いわんや拳国一致の国防の急務を訴え支持を求める素振りさえありません。国民もまた、米軍の即応非常時体制を連日マスコミ報道で見ているが、「有事の際には米軍が北朝鮮を叩くであろうし、そうあって当然だ」と、全く他人事のような無関心ぶりです。まさに戦後五十年の平和ボケの毒が、国家・国民の正常な判断能力を喪失させてしまったのです。

自衛隊が、この緊急時に軍事的にその国防の機能を果たし得ないことは、今の憲法のもとでは致し方ありません。本来なら政府与党は、この緊急時において憲法改正を含む法的整備を急ぐ義務がありますが、「平和憲法」の名を冠して故意に問題を避けるばかりです。有事法制論議とはいっても所詮「現行憲法の枠内でいかに米軍に協力するか(米軍の傭兵でしかない)」「——という消極的な問題意識しかなく、主権国家として全く制限されて来た国家意志＝国防力の不足を緊急に回復すべきである」という発想は出て来ません。

■独立国として評価されていない日本

わが国内ではイラク攻撃をめぐって右も左も反米・反戦論を展開していますが、冷厳な現代国際政治のもとでは、その論争じたいが平和ボケ現象です。米国も独仏・中露も決して「正義」や「道理」などで今のせめぎ合いを行なっているのではなく、イスラエル問題や石油戦略などのしたたかな国益を前提とした厳しい武器なき戦いです。いずれの国も、最後には軍事力行使も辞さない主権国家同士の国益のぶつかり合いなのです。

わが国はその当然の覚悟を基本的に有していない半人前国家であり、米国との同盟などとはおこがましい「保護国」であるという情けない現実を直視し、そこからの脱却を一刻も早く図るための臥薪嘗胆策を国民に訴えることこそ、真の政治責任といえるべきです。

■まずは「保護国」からの脱却を

拉致という国家犯罪を犯した北朝鮮に対して、国内的にさえ果敢な制裁措置を毅然として実施し得ない半人前国家・日本。その状況下で声高に反米を論じることとは、反戦派に与して戦後体制＝半人前国家の延命に負担するのみです。反日勢力による独裁国家北朝鮮・イラク支持は論外ですが、手前勝手な米国の外交姿勢に感情的に反発して反米を表明する人たちも、わが国は日米安保条約によって米国に護られて貰っているのだから米国を支持せよ、「という親米派も「同じ穴のムジナ」と言えましよう。

■主体的な国家意志を内外に示す

私ども維新政党・新風は、この非常時においてわが国の主権回復への責任を放棄して現状維持的発想の中で反米・親米を評論家風にあげつらう既成政治勢力の限界を徹底的に批判するものです。そして、今こそ戦後体制から脱却して国防力を回復する好契機と受け止めて、その戦略的対米支持(現政府与党は、同盟といつ以上、憲法を楯にこつての逃げ腰の協力ではなく、英国並みの強い支持姿勢を政治判断すべし)を国民に強く訴えつつ、誇りと自信を秘めた普通の国・日本の再生に力を尽くします。

新風は、国家主権を回復し国民に自信を取り戻す政党です

維新政党・新風本部

ホームページ <http://www.shimpu.jpn.org/>
〒604-0912 京都市中京区二条通河原町東入
京都書店会館 2F
TEL.075-256-1545 FAX.075-241-2193
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5
麹町口イタルビル401号
TEL.03-3263-7591 FAX.03-3263-8790